※ やぎめしコロリン

昔々、じいさんとばあさんがいた。じいさんがモッコに入っていねむりをしているうち、夢を見た。夢の中でじいさんは、「ばば、ばば、おれが天子になったどさといったら、ばばはきさきになったどや」といえといった。しかしばばは、「なげきになったどや」といったため、けんかになった。そこに近所の人がきて暴力をふるうのはいけないといい、じいさんを栗の木につないでしまった。

困っていると、天狗がとんで来てわけを聞いた。天狗は、「こんどから、そんなことをするな」といって、といてくれた。じいさんは、「天狗さん、天狗さんなんとしてとんであるけるのか」と聞くと、うちわを出してチエンチコチエンチエンチコチエンとあおいだら、とびあがった。じいさんは天狗からうちわをかりて、まねしてみたらとべた。

天狗はおどろいて、かえしてくれといったが、じいさんは、「ンニャ、ンニャ、チエンチコチエン、チエンチコチエン」と、とんでいった。しばらくとんでから、ごふく屋で着物でも買うと考えおりて行き、「金はあるから、一番よいのを着せてくれ」と、一番よい着物をきたあと、便所にいってくるといって、裏へ行きすぐ、チエンチコチエン、チエンチコチエンととびあがった。店の人たちはさわいだが、「ンニャ、ンニャ、チエンチコチエン、チエンチコチエン」ととんでいった。こんどは別の店で同じように、帽子や下駄を買いまたとんでいくと、はらが減ってきたため、料理屋に入って一番よい料理をたべ、またとんである町までやってきた。町に来たらたてふだがたっておった。

よんでみると、「娘の病気をなおしてくれたらムコにする」とあった。じいさんはあるはたごにとまって裏にでてみると、ネコが死んでいた。うちわの先でさわったら、ネコはウーンとうなった。またさわるとニヤーオンといい、三回目になったら　は生きかえってにげだした。

この方法で娘をなおそうと考え、娘の家にいって、「たてふだを見て来たものであるが、まじないをして娘をなおしてみせる」といい、娘のそばにいって、でたらめのまじないをとなえながら、娘のからだにさわるとウーンとうなり、二度目おしたらおきあがり、三回目にはおき出して歩いた。

約束通りむこにするといい、いい部屋に入れられ、けんぷの布団に入ってねたらスーと沈んでいった。はっと目をさましたらモッコがつぶればばと頭をぶっつけていてあったと。